

オオバナミズキンバイ・ナガエツルノゲイトウの繁茂状況確認調査（2018年秋季）報告

- ・日時/2018年11月8日（木） 午前9時00分集合、9時30分～11時30分
- ・場所/手賀沼上沼～ハス帯～高野山新田植生帯
- ・参加者（敬称略）

農研機構：嶺田拓也 滋賀県：中井克樹 県立中央博：林紀男、

茨城県自然博物館：伊藤綾乃、池澤広美

手水協（県水質保全課）：2名 美手連：7名

NPO 法人アルバトロスヨットクラブ：2名 （「みずすまし号」の出動協力）

「手賀沼の小池」船頭さん

- ・報告/小倉久子（美手連）

※この見学は手賀沼流域フォーラム調査事業の一環です。

【調査地点図】 ※黄色番号：掲載写真地点



◆ 若松団地地先



◆ 第5樋管【①】東側

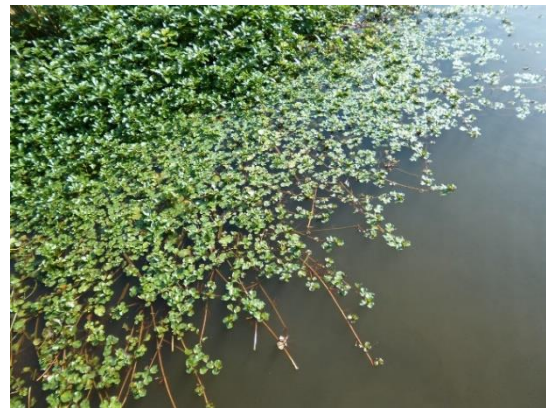


ヨシの根元の緑色は、ナガエ（オオバナ）群落。このあたりはナガエが優勢。

◆ 第5樋管と植生帯の間 【②】



第5樋管西側からは、オオバナが優勢。
群落の縁辺部は、オオバナが水面を這
うように勢力を拡大中。



◆ オオバナミズキンバイの葉を食べるキタカミナリハムシ

沼内のオオバナ群落のどこでもこのような光景が見られた。一緒に生えているナガエツルノゲイトウの
葉には食痕が全くなく、オオバナだけが選択的に食べられていた。



◆ 植生帯の中 【②】



裸地に広がっているナガエとオオバナ。ナガエは鉛直方向（上に向かって）に成長するが、オオバナは水平に広がっていくので、ほとんどがオオバナの陣地になってしまう。

◆第2樋門【④】



沼の北岸沿いのナガエ・オオバナ群落は、縁がまくれたようになっていた。台風21号（8月）、24号（9月）の強風・波によって生じたものと考えられた。

◆第1樋管と手賀沼公園地先の間【⑤】 ◆根戸新田 【⑧】



ナガエとオオバナの混合群落。先端部分には漂着したナガエが生育しているが、ほぼオオバナが占拠している。



黄緑色がナガエ優勢エリア。濃い緑色はオオバナ優勢エリア。帯状に繁茂し、陸側のヨシ帯の中にもじわじわと侵入している。

◆花火台船 【⑩】



このエリアの群落は、より高密度に、より広範囲に生長していた。
昨年11月にもすでにオオバナが優勢になっていたが、ナガエもオオバナに混じって生息しており、オオバナに完全駆逐されることはなかった。

◆ アマゾンチカガミ

台船の隙間に、見慣れない浮草が目についた。
アマゾンチカガミという外来水草とのこと。アクアリウム用として市販されているという。



◆ 【⑪】北千葉導水第二機場前面



北千葉導水第二機場前のナガエ・オオバナ群落は、大きくえぐられたようになっていた。
2017年11月には巨大な群落が剥離し、その後、2018年の夏季には大きな群落が再生されたとの情報があったが、秋季の台風により、また剥離して沼内に拡散したと思われる。

◆ 【⑫】大津川河口部



大津川河口部の大群落は、ナガエが優勢であったが、オオバナも少しずつ侵入していた。
河口部に並んでいる釣用栈橋のうち、使われていないものはナガエ・オオバナに乘っ取られていた。

◆ 漂流するちぎれたナガエ・オオバナ群落 調査中にいくつかの漂流群落に遭遇した。【⑬】



ハス群落【⑭】

—————

調査終了後に水の館研修室で昼食を取りながら、専門家の方たちからいろいろ教えていただいた。

・オオバナ群落の下にはゾウミジンコ、ナガテミジンコがいない。ガシヤモクやササバモにはミジンコが集まる。ナガエには変化がみられない。イヌタヌキモ、ホザキノフサモにはミジンコは来ない。オオバナも忌避物質を出しているのかもしれない。



- ・水域に繁茂するナガエ・オオバナは、基本的には河川管理者の責任。まずは行政が動くべきだ。その後、ナガエ・オオバナの駆除・有効利用でビジネス・事業化ができるかもしれない。
- ・琵琶湖の場合「琵琶湖はみんなの宝」という県民の合意が得られやすいので、お金をかけてもきれいにしよう、という流れを作りやすい。
- ・完全駆除は困難なので、駆除の優先順位を決めることが必要だ。希少種を守る。コアの場（ここだけは！）は集中的に駆除、など。

◆ 農業被害について。

- ・琵琶湖では、まだオオバナの水田への大きな侵入はない。鹿児島県ではすでにオオバナが水田に侵入しており、稲よりも背高く繁茂したオオバナにより、減収被害が生じているという。
- ・ナガエがイネに混じって繁茂すると、脱穀できなくなる。ナガエを細かくしてまき散らしてしまう。
- ・中国ではすでに稲作に影響が出ていると言われている。

◆ 農薬使用について

- ・河川、湖沼への農薬使用は抵抗があると思われるが、農地では基本的にいつも農薬は使われている。除草剤としてはラウンドアップという除草剤が一般的に使用されている。
- ・八千代市の試験田でラウンドアップによるナガエの駆除試験を行っている。結果がまとまったらご報告します。
- ・刈り払い機による駆除では、刈り取った後、オオバナは茎から根を伸ばす。

※掲載の写真については、無許可での転載はご遠慮くださるよう、お願いいたします。